



JST 理事長 記者説明会

平成28年9月14日



科学技術振興機構



平成29年度 概算要求のポイント



科学技術振興機構

平成29年度概算要求のポイント

ハイリスク・ハイインパクト研究開発に取り組むなど、「第5期科学技術基本計画」、「日本再興戦略」改訂2016」及び「科学技術イノベーション総合戦略2016」に積極的に対応し、平成28年度に発表した、JST構造改革に向けた「濱口プラン」を踏まえ、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、挑戦的・非連続・革新的な研究開発を一層強力に推進する。

■平成29年度概算要求額(平成28年度予算額)

政府支出額 1,185億円(1,009億円) <一般勘定のみ>

うち、運営費交付金 1,179億円(1,009億円) 対前年度比 16.9%増

施設整備補助金 6億円(0億円)

概要

戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等の成果を社会実装に加速して繋げるため、国が定める重点開発領域、技術テーマの下、プログラム・マネージャー(PM)を選定し、経済・社会的なインパクトを重視した非連続イノベーションを創出する画期的・革新的な研究開発を概念実証(POC)に向けて実施する。

事業概要

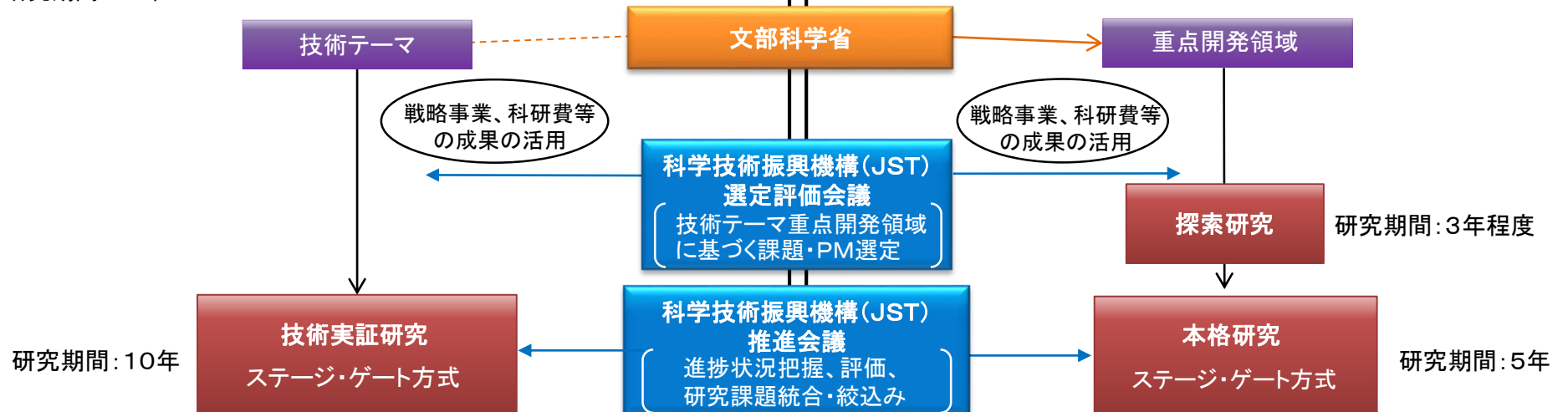
研究開発課題に応じ、以下の2つのタイプで研究開発を推進する。

<革新的未来技術創出型>

- 将来の社会変革や新産業創出をもたらす画期的・革新的成果創出に向け、挑戦的な課題を設定し、その課題を解決するための研究開発を推進する。
 - 科学技術イノベーションに関する情報を収集・分析し、現在の技術体系を変え、将来の基盤技術となる技術テーマを特定し、当該技術に係る研究開発に集中的に投資する。
 - 科学(Science)と工学(Engineering)の協働により、新たな基盤技術の創出、社会実装までの期間の革新的な短縮を図る。
 - PMの公募段階から企業の参画を求めるとともに、研究開発途上から企業からの費用負担を求めつつ研究開発を行うことにより、創出された新しい基盤技術を速やかに社会実装に繋げるとともに、民間投資の誘発を図る。
- (枠組) 研究期間: 10年

<研究成果実用化加速型>

- 既存事業を再構成し、国が定める重点開発領域において、社会・産業ニーズを踏まえ挑戦的かつ明確なターゲットを設定し、斬新なアイデアを絶え間なく取り入れる仕組みを導入した研究開発を行う。
 - 当該研究開発を通じて、現在の技術的課題にブレークスルーを起こすとともに、戦略的創造研究推進事業等の研究成果の実用化の加速を図る。
 - これまでの研究開発マネジメントのノウハウを踏まえ、随時公募を行うとともに、スモールスタート・ステージゲート方式を導入することにより、競争環境の下、挑戦性・独創性を確保する。
- (枠組) 研究期間: 原則5年(延長有)



出資型新事業創出支援プログラム SUCCESSについて

(**S**upport program of **C**apital **C**ontribution to **E**arly-**S**tage companies)



科学技術振興機構

目次

1. 背景

2. 事業の概要

(参考)① 投資事例

② JST、NEDO共催！大学発ベンチャー表彰

1. 背景 (1)政策動向

成長戦略(「日本再興戦略」2016(平成28年6月2日閣議決定)より抜粋)

第2 具体的施策

Ⅲイノベーション・ベンチャー創出力の強化、チャレンジ精神にあふれる人材の創出等
iv)「ベンチャー・チャレンジ2020」の実現

政府や地方自治体、企業、大学・研究開発機関、金融機関、経済団体等に至るまで**関係機関全てが、グローバル・ベンチャーが自然発生的に連続して生み出される「ベンチャー・エコシステムの構築」を共通の目標と認識し、(中略)**。それぞれの主体が、ベンチャー企業のニーズに対し出来ることを積極的に探し、また、他の主体とも連携も深めていく。そうした「攻めの運動形成」を仕掛け、**今までとは次元の違うベンチャー創出を実現していくことが必要**である。

第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定)

第5章 イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築

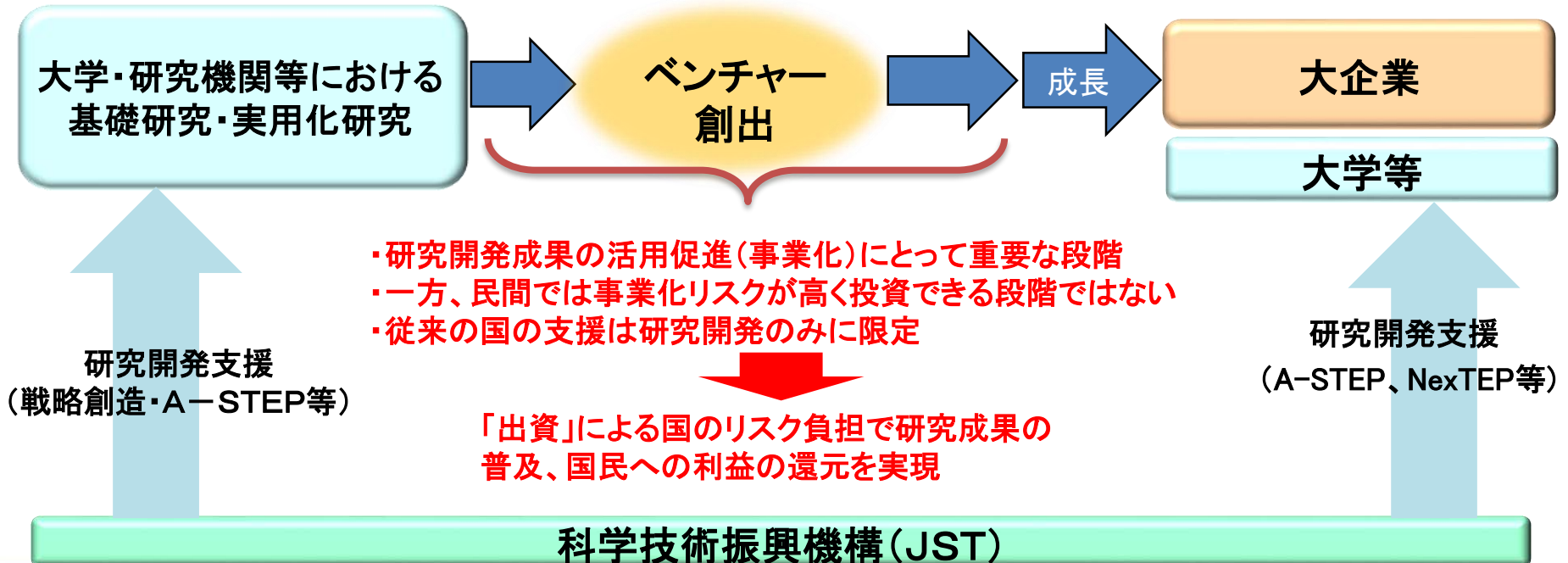
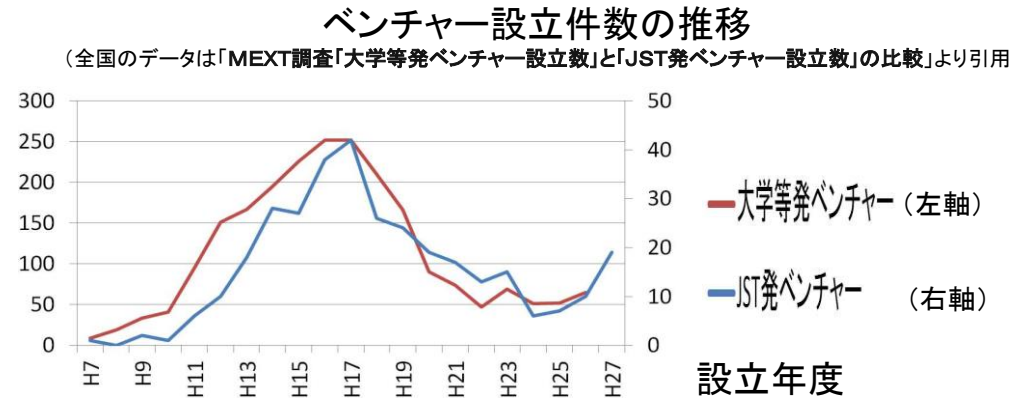
(2) 新規事業に挑戦する中小・ベンチャー企業の創出強化

■ 起業家の育成、起業、事業化、成長段階までの各過程に適した支援(大学発ベンチャー創出促進、新製品・サービスに対する初期需要確保など)、新規上場(IPO)やM&Aの増加

研究開発型ベンチャー企業の起業を増やすとともに、その出口戦略についてM&A等への多様化も図りながら、現状において把握可能な、**我が国における研究開発型ベンチャー企業の新規上場(株式公開(IPO)等)数について、第5期基本計画期間中において2倍となることを目指す。**

1. 背景 (2) JST事業発ベンチャーの設立動向

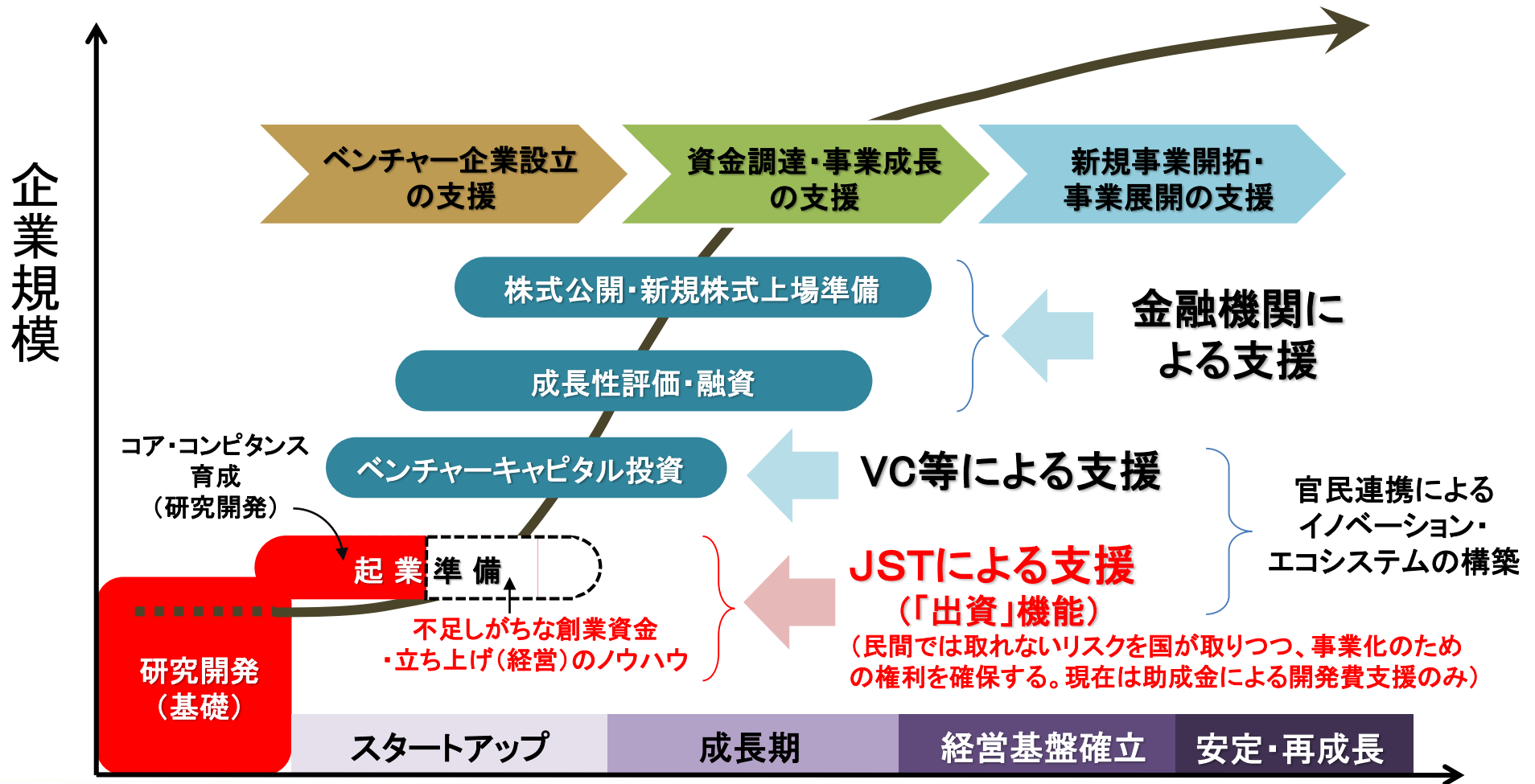
- JSTが実施している各事業の研究成果等をもとに、329社のベンチャーが設立（平成28年3月末時点）
- 設立数自体は持ち直しつつあるが、JSTの研究開発成果の実用化・社会還元を促進するため、一層の支援が求められる



1. 背景 (3) スタートアップ支援の必要性

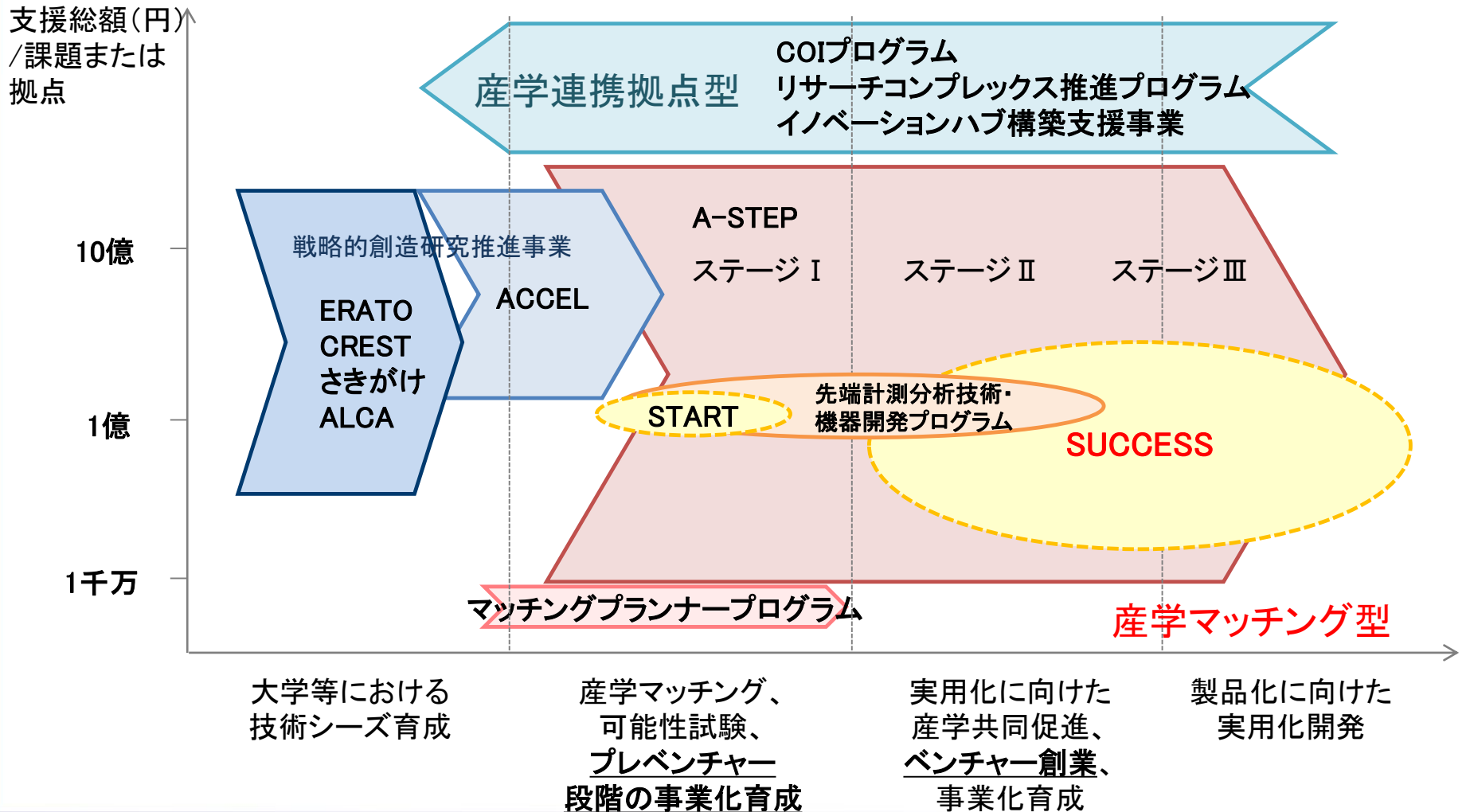
- 革新的な大学等の技術をイノベーションにつなげる観点から、ベンチャー企業に対して、産学金連携により各フェーズに見合った支援が必要

特に創業初期の立ち上げにかかる研究開発・事業化支援の強化は、成果の最大化のために必要不可欠



2. 事業の概要 (1) JSTにおける本事業の位置づけ

- JST各種事業の俯瞰と出資事業



2. 事業の概要 (2)事業の目的・条件等

■ 事業の目的

JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業に対しJSTが出資並びに人的及び技術的援助を行うことでその創出及び成長を促進し、**当該ベンチャー企業が行う事業活動を通じてJSTの研究開発成果の実用化・社会還元を促進することを目的とする。**
(平成26年度より事業開始)

■ 出資先の条件

- ①**JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業であること**
- ②**新たに設立する、または設立から概ね5年以内の企業であること**

■ 出資件数

年間2～5件程度

■ 出資の上限(出資比率、出資金額両方の条件を満たす必要あり)

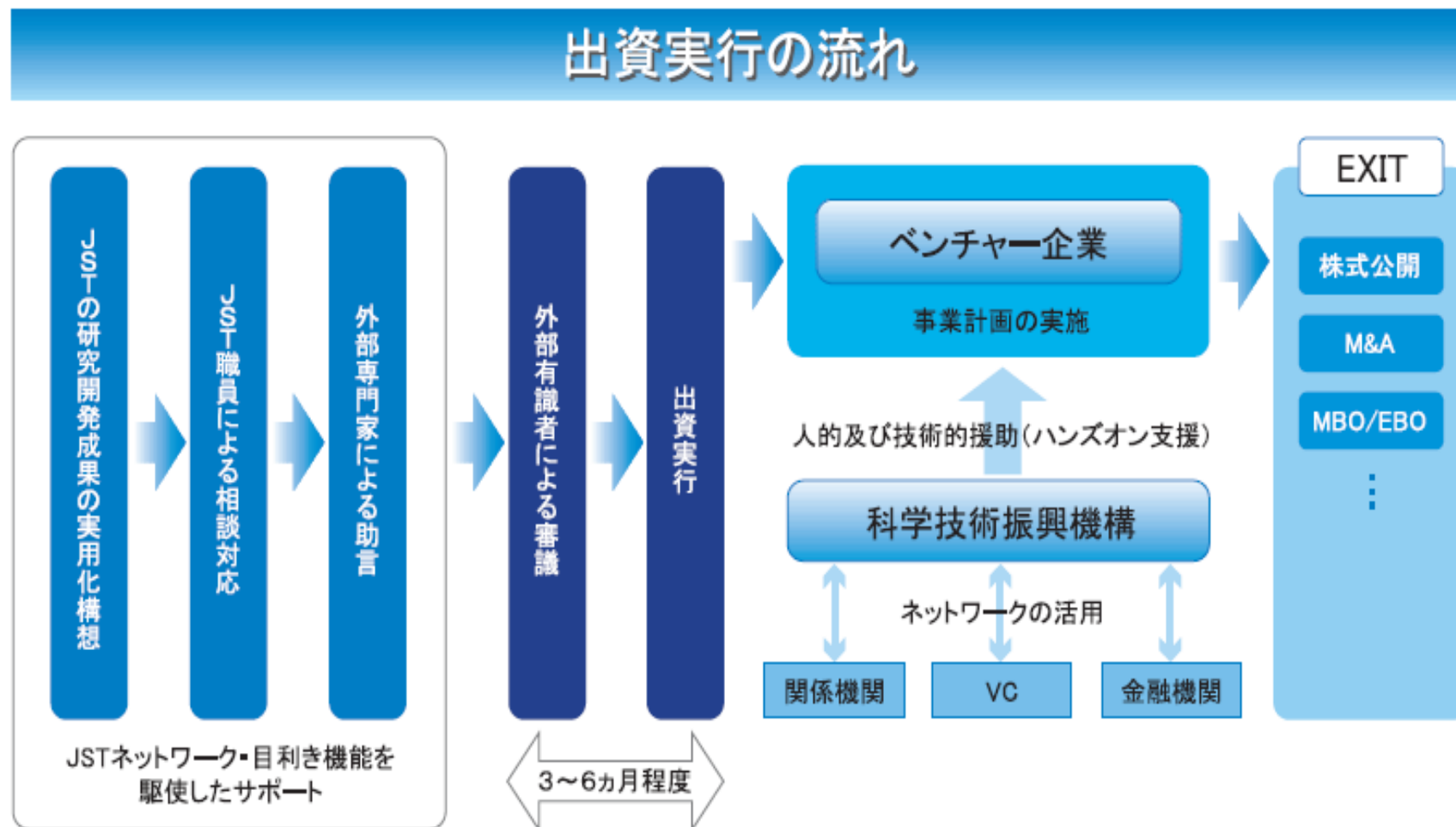
- ①出資比率:原則として総議決権の1/2を超えない範囲
- ②出資金額:累計額で1社あたり最大5億円
(個別の出資額は公表していないが、数千万円から1億円以内の出資実績)

2. 事業の概要 (3) 支援の特長

- JSTによる直接出資のため、期限設定が柔軟。
- 研究費以外にも事業化に必要な用途に充当可。
- 事業会社や民間VCからの協調出資を期待
→ 出資事業開始以降の民間出融資に対する“呼び水効果※”の実績は9倍に達している(平成28年3月末現在)。
- 投資スキーム、EXIT形態、その他の投資条件について柔軟に対応。
- 役員派遣を必須としない。
- 潜在ユーザーや業務提携先、協調出資先を紹介。

※(JST出資額+JST出資以降の民間出融資額)/JST出資額

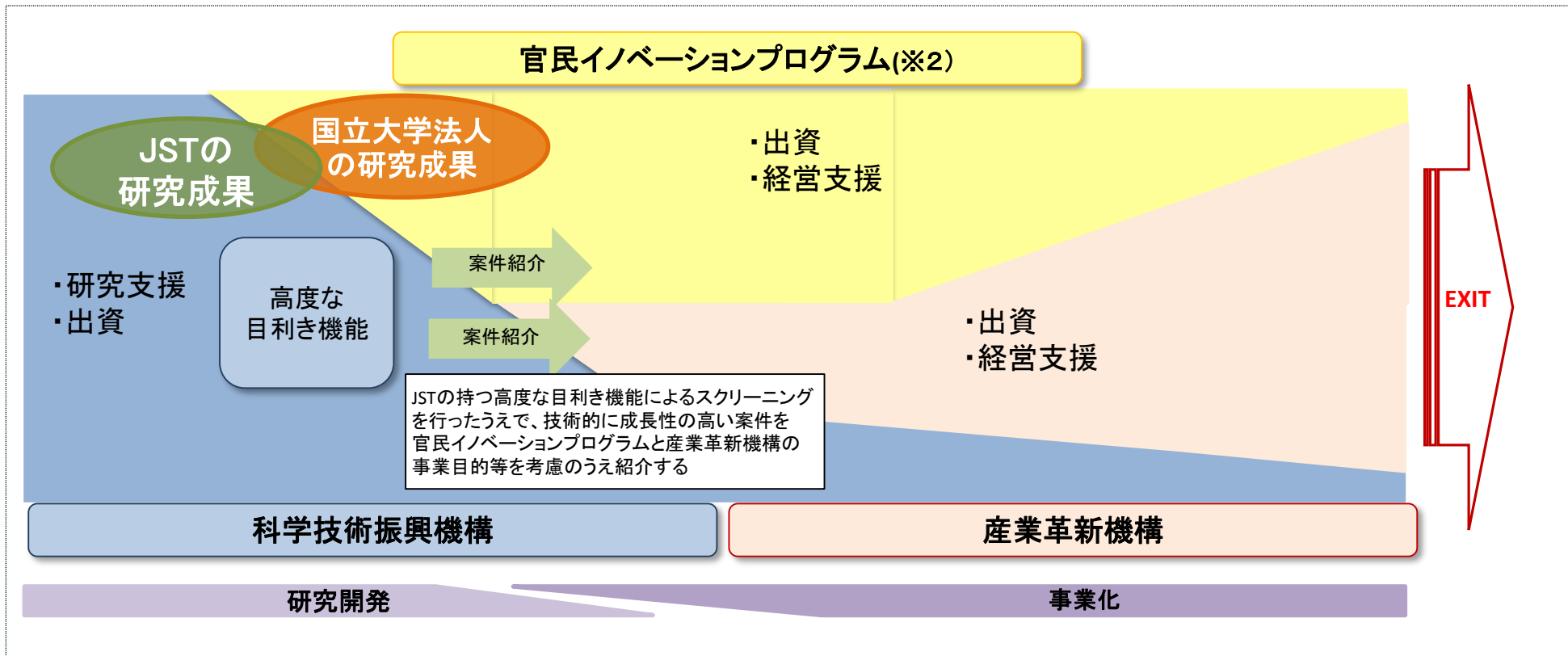
2. 事業の概要 (4) 出資実行の流れ



2. 事業の概要 (5)他の官民ファンドとの関係

官民ファンドの活用推進に関する関係閣僚会議※1のもと、産業革新機構、官民イノベーションプログラムと「シーズ・ベンチャー支援連携チーム」を組織し、**民業圧迫を回避しつつ時間軸で連携してベンチャーを支援**

【官民ファンド相互間の連携イメージ】



※1 官民ファンドの活用推進を図るとの観点から、官民ファンドの運営状況の検証を政府一体となり関係行政機関が連携して行うための閣僚会議

※2 平成24年度補正予算として東北大学、東京大学、京都大学、及び大阪大学へ執行された出資金を活用して、各大学がベンチャーキャピタル子会社およびファンドを設立し、大学の研究成果の事業化を目的としたベンチャー企業に対する出資を行うプログラム。

参考① 投資事例

- スリープウェル株式会社
- 株式会社サイフューズ
- 株式会社アクセルスペース
- 株式会社Kyulux
- ロボティック・バイオロジー・インスティテュート株式会社
- 株式会社ファンペップ
- 医化学創薬株式会社
- 株式会社Xenoma

スリープウェル株式会社

1対の電極で睡眠時の脳波を計測、その結果から睡眠の質を客観的に評価

会社概要

- ◆設立 : 平成22年4月
- ◆代表取締役 : 吉田 政樹
- ◆本社 : 大阪府
- ◆活用したJST事業

独創的シーズ展開事業 大学発ベンチャー創出推進
「睡眠脳波計測と睡眠評価技術の確立及び評価システムの構築」

開発期間：平成19年7月～平成22年3月

開発代表者：裏出 良博（大阪バイオサイエンス研究所）

起業家：吉田 政樹

事業の概要

◆単三形二次電池2本で駆動可能な小型の脳波計（医療機器認証取得済み）で取得した睡眠時の脳波データから「睡眠の質」を客観的に評価するソフトウェアを開発（医療機器認証取得済）。

◆従来の睡眠計測（PSG）と同時計測した解析結果と比較しても遜色のない評価結果が得られている。

◆睡眠の改善に向けた機器や薬剤、食品等を開発する企業からその効果検証を受託する事業を行っている。

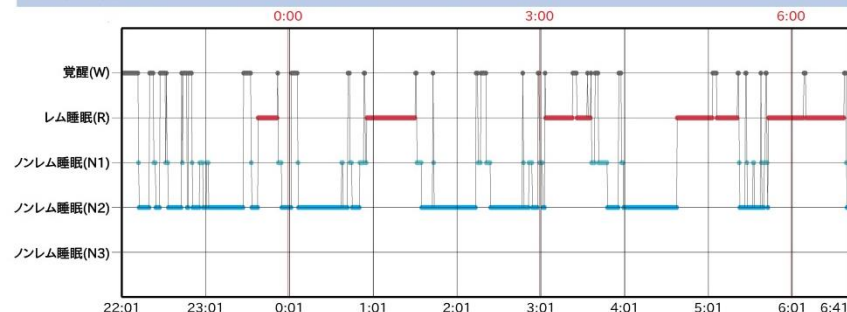
特徴と今後の展開

- ◆装着や操作が簡単であり、日常の環境下で睡眠時の脳波データの取得が可能。
- ◆睡眠解析の自動化を進め、市場規模の大きい企業健診や人間ドックなどでの事業展開に取り組む。
- ◆将来的には睡眠障害や睡眠障害との関連が深いとされる精神疾患の診断補助ツールとして医療領域に事業展開を図る。



従来の睡眠計測（PSG）（左）とスリープウェル社の睡眠脳波計（右）

睡眠経過図：睡眠時間における睡眠段階の経過推移



睡眠解析結果（睡眠経過図）

株式会社サイフューズ

剣山方式のバイオ3Dプリンタを開発、細胞のみで三次元組織を製造する

会社概要

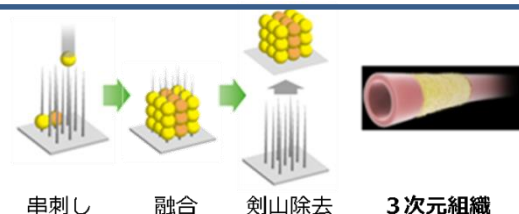
- ◆ 設立 : 平成22年8月
- ◆ 共同創業者 : 口石 幸治
- ◆ 本社 : 東京都
- ◆ 活用したJST事業
育成研究 (旧地域)
「バイオリピッドプロトタイピングシステムの開発」
開発期間 : 平成19年4月～平成22年3月
開発代表者 : 中山 功一 (佐賀大学大学院工学系研究科)

事業の概要

- ◆ 細胞のみで三次元組織を製造可能な剣山方式のバイオ3Dプリンタを開発。
- ◆ 研究用のバイオ3Dプリンタを研究機関等に販売し、三次元構造を要する再生医療製品の開発を支援。
- ◆ 基礎研究を社内にて行い、研究機関等に提案、シーズの拡大ひいては装置購入先の拡大を図っている。

特徴と今後の展開

- ◆ 足場材なし、細胞のみで三次元組織を製造可能。
- ◆ 細胞の生存率が高く、機能性に富み、強度、弾力などにも優れる組織を製造できる。
- ◆ 米国、中国等の海外を含め、研究用バイオ3Dプリンタを販売、再生医療シーズの開発を促進する。
- ◆ 臨床研究用及び量産用のバイオ3Dプリンタを開発し、現在拡大を図っているシーズの臨床試験及び実用化時の製造を一手に受託する。
- ◆ 再生医療における加工・製造のプラットフォーム技術を目指す。



剣山方式の概念図



バイオ3Dプリンターによる三次元組織製造フロー

株式会社アクセルスペース

超小型衛星群による「地球観測画像データ(EO)事業」に参入

会社概要

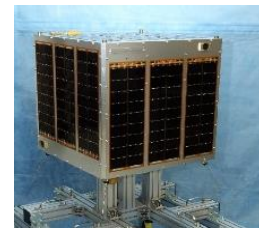
- ◆設立 : 平成20年8月
- ◆代表取締役 : 中村 友哉
- ◆本社 : 東京都
- ◆活用したJST事業
独創的シーズ展開事業 大学発ベンチャー創出推進
「新しい宇宙利用市場の生成を目指した低コスト・短期開発の超小型衛星の研究開発」
開発期間 : 平成18年8月～平成21年3月
開発代表者 : 中須賀 真一 (東京大学)
起業家 : 中村 友哉

事業の概要

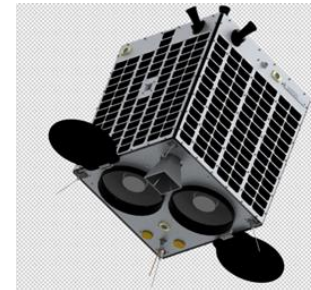
- ◆一般的な大型衛星の 1/100 となる 1 機数億円という低コストの超小型人工衛星 (重さ 100kg 以下級) の設計開発から打ち上げアレンジ、打ち上げ、運用まで一貫したワンストップでのサービスを提供している。
- ◆2013年に世界初となる民間商用超小型衛星「WNISAT-1」、2014年には地球観測の事業化実験を行う超小型衛星「ほどよし1号機」(地上分解能6.7m) を打ち上げ。

特徴と今後の展開

- ◆従来の民間商用衛星ビジネスは引き続き実施。
- ◆2017年中を目処に地上分解能2.5m、撮影幅50km以上の画像を取得する能力を持つ地球観測用の超小型衛星GRUS 3機を打ち上げ、地球観測画像データ事業に参入。
- ◆将来的にはGRUSを多数打ち上げることにより高頻度な地球観測網を整備する計画。



事業化実験衛星「ほどよし1号機」の外観 (左) とその取得画像 (右)



GRUSの外観 (左) とEO事業の想定市場 (右)

株式会社Kyulux

究極の有機EL発光材料を福岡から世界へ向けて実用化開発へ

会社概要

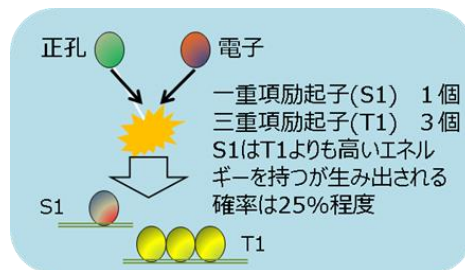
- ◆ 設立 : 平成27年3月
- ◆ 代表取締役CEO : 佐保井 久里須
代表取締役CTO : 安達 淳治
- ◆ 本社 : 福岡県
- ◆ 活用したJST事業
戦略的創造研究推進事業CREST
「有機半導体レーザーの構築とデバイス物理の解明」(H14～
戦略的創造研究推進事業ERATO「安達分子エキシトン工
学」(H25～
開発代表者 : 安達 千波矢 (九州大学)

事業の概要

- ◆ 蛍光はリン光と比べて応答速度や発色の自由度につながる材料選択性、高輝度化やコストの面で優れているが、発光効率の問題から現在は有機ELの発光材料としては主にリン光材料が使われている。
- ◆ 当社はTADF (熱活性化遅延蛍光)という新たな原理に基づき蛍光材料の発光効率を飛躍的に高め、日本発の蛍光材料が有機EL発光材料の世界標準となることを目指す。

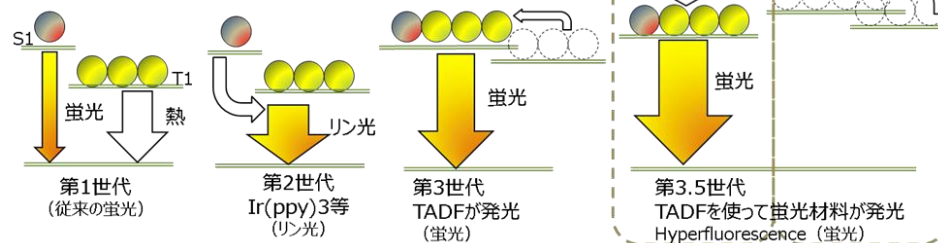
特徴と今後の展開

- ◆ 下記第3世代で、TADFでT1をS1に引き上げて揃えることにより、高効率な蛍光を実現。
- ◆ 同第3.5世代ではTADFでT1をS1に引き上げて揃え、他の蛍光材料にエネルギーをシフトしTADF自体は発光させないことで高効率と長寿命を同時に実現。
- ◆ まず、青色TADF、Hyperfluorescenceの商品化を先行させ、将来的にはRGBすべての色を実用化する。



正孔と電子が出会うと1つの一重項励起子と3つの三重項励起子が発生。一重項励起状態(S1)から基底状態に戻るときに伴う発光が蛍光で、三重項励起状態(T1)から基底状態に戻るときに伴う発光がリン光。

有機ELの発光メカニズム (蛍光とリン光)



TADFによる発光メカニズムとの比較

ロボティック・バイオロジー・インスティテュート株式会社

ライフサイエンス実験、匠の技を高度化し再現するロボットシステム

会社概要

- ◆ 設立 : 平成27年6月
- ◆ 代表取締役 : 高木 英二
- ◆ 本社 : 東京都
- ◆ 活用したJST事業
先端計測分析技術・機器開発事業
「超高感度質量分析のためのサンプル前処理・導入システムの開発」(H16～H19)
「タンパク質超高感度質量分析のための次世代微量サンプル導入システム」(H20～H22)
開発代表者 : 夏目 徹 (産業技術総合研究所)
起業家 : 高木 英二

事業の概要

- ◆ ライフサイエンス分野における実験は、研究者の手技により同じ実験でも結果がばらつく。人の手技をロボットの作業に置き換えバラツキを押さえてフェムトモルレベルの超高感度検出レベルで一定の結果をもたらす技術をシステムとして販売する。
- ◆ ロボットはメーカーから供給を受けソフトウェアを搭載、周辺機器を組み込みロボットセルを販売。セルを配置したバイオロジーセンターを設置しライフサイエンス実験の受託事業も実施する。

特徴と今後の展開

- ◆ プロテオミクス・メタボロミクス解析分野／ゲノミクス解析分野／セルベーススクリーニング分野 に向けたシステム設計と販売を行なう。
- ◆ 2017年より、受託解析を開始。
- ◆ 2018年ごろから、電子化プロセスバリデーションの運用を開始。

人を超える正確性・再現性

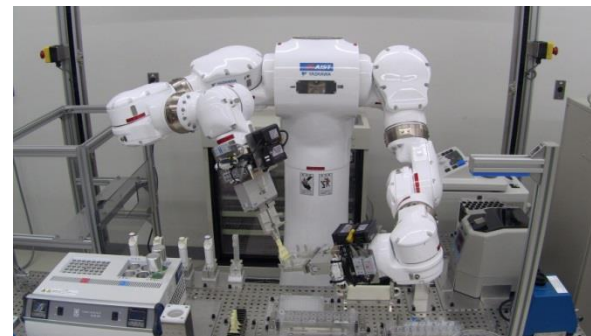
手作業のバラツキや個人差・ミスを排除し、人間以上の高い再現性を実現します。

スキルの可視化・共有化

暗黙知だった熟練のスキルを可視化し、複数拠点で共有できます。

高い自在性・柔軟性

人間用のツールをそのまま使用し、技術進歩による工程・装置変動にも対応できます。



株式会社ファンペップ

抗菌性ペプチドを褥瘡などの治療剤に活用

会社概要

- ◆設立 : 平成25年10月
- ◆代表取締役 : 平井昭光
- ◆本社 : 東京都
- ◆活用したJST事業

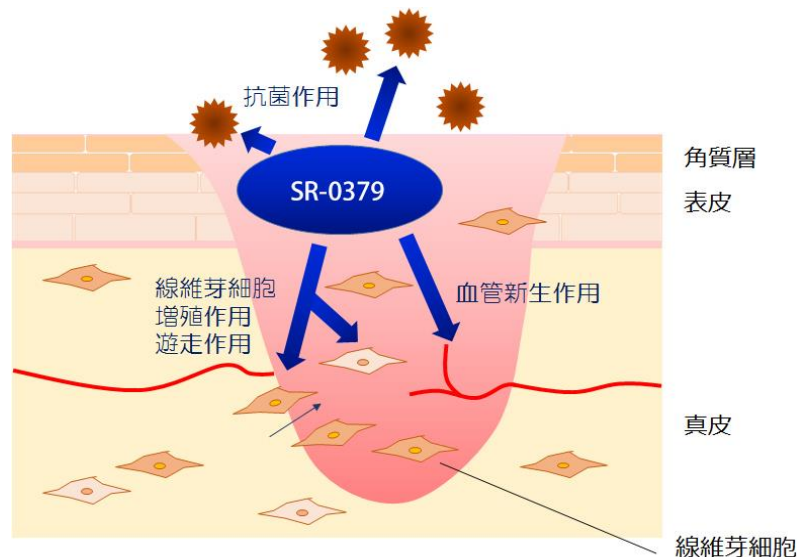
平成21年度地域イノベーション創出総合支援事業・シーズ発掘支援「新規抗菌ペプチドを用いた創傷治療剤の開発」
代表者 : 中神 啓徳 (大阪大学医学系研究科)

インパクトと今後の展開

- ◆高齢化が進む中で今後社会的ニーズが高まる在宅医療などでの活用が期待される。
- ◆今後も、大阪大学大学院医学系研究科の基礎研究により創出された機能性ペプチドの中から、実用化の高いプロダクトについて、製薬企業等との共同研究を通じた医薬品、医療機器、化粧品などの開発を推進。

事業の概要

- ◆ペプチド医薬品・医療機器等の開発・製造及び販売
- ◆大阪大学大学院の基礎研究により同定した、血管内皮細胞の増殖効果を有し、抗菌作用も示すペプチドのアミノ酸配列を改変することでその機能を強化。褥瘡、難治性皮膚潰瘍の治療薬とすることを旨とする。
- ◆大手製薬企業とライセンス契約を締結済み。



医化学創薬株式会社

糖鎖の解析から合成・評価まで一貫して行う独自技術で新たなバイオ市場を切り拓く

会社概要

- ◆設立 : 平成22年11月
- ◆代表取締役 : 伊藤 勝彦
- ◆本社 : 北海道
- ◆活用したJST事業

先端計測分析技術・機器開発プログラム

「疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発」(H16-H20)

「全自動糖鎖プロファイル解析診断システムの開発」(H21-H23)

「糖鎖による診断システム統合ソフトウェアの開発」(H21-H23)

「疾患診断用全自動糖鎖解析装置の活用・普及促進」(H23-H25)

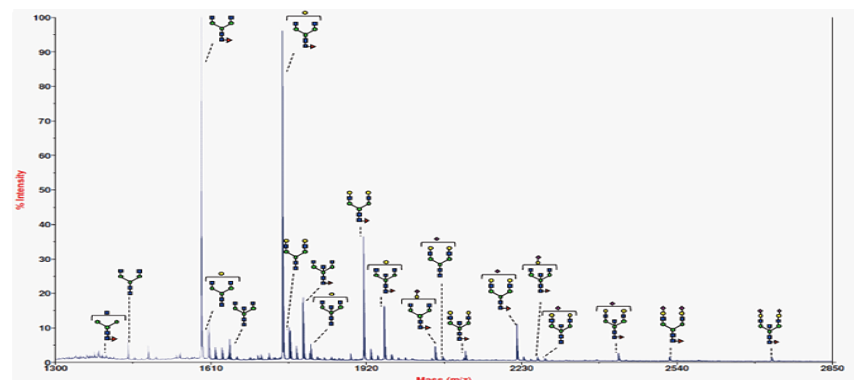
開発代表者 : 西村 紳一郎 (北海道大学)

事業の概要

- ◆生体試料から糖鎖を抽出・定量解析する技術や糖鎖や糖誘導体・糖ペプチドなどを迅速・精密に合成する技術を保有。
- ◆研究機関や創薬企業などから糖鎖の解析や糖ペプチドなどの合成を受託する事業を実施。
- ◆疾患特異的な糖鎖複合体をエピトープ (抗体が認識する抗原の部位) とするリード抗体の探索を進めている。

特徴と今後の展開

- ◆糖鎖解析・合成受託サービスの提供を継続。
- ◆製薬企業や食品・化学品企業等に、糖鎖解析によるタンパク製剤の品質管理システムを構築・提供するほか、薬物動態解析サービスなどの提供を行っていく。
- ◆糖鎖複合体をエピトープとする疾患特異性の高い抗体を診断薬や治療薬の創薬シーズとして導出する創薬プラットフォーム事業を展開。



sample	ヒト血清由来 IgG, 50 µg
質量分析装置	AB SCIEX TOF/TOF™ 5800 システム
マトリックス	DHB-Na
ラベル化剤	BOA

質量分析装置を使用した糖鎖解析事例

株式会社Xenoma

装着感がない、着心地のよいウェアラブルデバイスを提供

会社概要

- ◆設立 : 平成27年11月
- ◆代表取締役: 網盛一郎
- ◆本社 : 東京都
- ◆活用したJST事業
戦略的創造研究推進事業ERATO
「染谷生体調和エレクトロニクスプロジェクト」(H23～)
開発代表者 : 染谷 隆夫 (東京大学)

特徴と今後の展開

- ◆海外展示会等を通じてウェアラブルデバイス市場の大きい米国市場を積極的に開拓。
- ◆歪みセンサを用いたモーションキャプチャスーツを軸に事業を展開、染谷PJで開発されている温度センサや圧力センサを実装、実用化。
- ◆衣服型デバイスにおいては配線がネックとなっている企業が多い。積極的に他社との共同開発に取り組み、オープンイノベーションを通じ広く技術を活用、意識せずデバイスを身につける世界の創造に貢献する。

事業の概要

- ◆衣服型のウェアラブルデバイスの開発・販売を行う企業。
- ◆ ERATO染谷PJで開発した伸縮性配線とフレキシブルセンサを 組み合わせ、装着感がない、着心地のよいウェアラブルデバイスを提供する。
- ◆当社は企画・開発を行い製造はファブレス。
- ◆製造委託先は既に開拓済み既に量産可能。



参考② 大学発ベンチャー表彰 JST、NEDO共催！

■開催概要

【目的】

大学等における研究開発成果を用いた起業および起業後の挑戦的な取り組みや、大学や企業等から大学発ベンチャーへの支援等をより一層促進する

【特徴】

- ①大学発ベンチャーに限定した募集でかつ未上場企業を優先的に評価
- ②支援大学等、支援企業も一緒に表彰
- ③文部科学大臣賞、経済産業大臣賞と2つの大臣賞を授与

【2016年度開催スケジュール】

受賞発表 8月18日

表彰式 8月25日(木)@東京ビッグサイト

(イノベーションジャパン2016と同時開催)

2016年度受賞者等開催概要については別添資料をご参照

(過去受賞者等の詳細はWebに掲載)

<http://www.jst.go.jp/aas/>

続きは、Webで。

大学発ベンチャー

検索



トピックス



科学技術振興機構

サイエンスアゴラ2016(年次総会)開催について

サイエンスアゴラは
「あらゆる人に開かれた 科学と社会をつなぐ広場」です。

「つくろう、科学とともにある社会」というビジョンを共有した人々が集まり、行動している人がお互いの活動に関心を持ち、仲間を募り、発展させていく場となることを、さらには行動をおこそうとしている人が具体的に一步を踏み出す場にもなることを願っております。

2011年の東日本大震災から5年が経過

私たちはこの震災で何を克服したのか、また何を解決できず、残された課題は何なのか、この節目の年のサイエンスアゴラを開催するにあたり、改めて現実と真摯に向き合い、対話する場にしたいと考えています。

日 程：2016年11月3日（木・祝）～6日（日）
会 場：東京・お台場地域（日本科学未来館ほか）
主 催：科学技術振興機構（JST） ※入場無料

約210企画が出展
参加者数（見込）
12,000人

サイエンスアゴラ2016(年次総会)ハイライト

◆ 開幕セッション

新世紀の学術・産業・政策・メディア・そして市民

主催：JST 科学コミュニケーションセンター
日時：11月3日（木・祝）13:30～17:00

基調講演

- Rush. D. Holt氏
AAAS（全米科学振興協会：Science誌発行）CEO
（元米国下院議員）
- 南場智子氏
株式会社ディー・エヌ・エー創業者、現取締役会長



Rush. D. Holt氏



南場 智子氏

パネル討論

福島と熊本で震災に直面した経験を持つ高校生が、若手科学者と「震災復興5年」を振り返り、科学技術をめぐるコミュニティのあり方について語り合うパネル討論を開催。

◆ キーノートセッション

震災から5年～いのちを守るコミュニティ～

主催：大阪市立大学都市防災教育研究センター, 東北大学災害科学国際研究所
日時：11月6日（日）13:00～14:30

人畜共通感染症へのチャレンジ

主催：日本学術会議 科学力増進分科会
日時：11月5日（土）10:30～12:00

うちの子、少し違うかも・・・

～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～
主催：JST 社会技術研究開発センター
日時：11月5日（土）13:00～14:30

芸術、科学、技術、クリエイティブ

主催：駐日欧州連合代表部
日時：11月5日（土）
15:30～17:00

INNOVATION BY DESIGN

ー科学とデザインー
主催：京都工芸繊維大学
KYOTO Design Lab
日時：11月5日（土）
13:00～14:30

がん予防が切り拓く新しい社会

主催：がん予防の未来を考える会
日時：11月3日（木・祝）
10:30～12:00



JST イベント情報



科学技術振興機構

JSTイベント情報(9/14~)

ナノ・マイクロテクノロジー 新技術説明会

開催日: 9月15日(木) 13:00~15:25
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

第19回中国研究サロン

「日中における大学事情の比較~大学運営の視点から~」

開催日: 9月16日(金) 16:00~18:45
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ: 中国総合研究交流センター
Tel: 03-5214-7556 Mail: crcc@jst.go.jp

グローバルサイエンスキャンパス 平成28年度全国受講生研究発表会

開催日: 9月18日(日) 15:00~18:30
会場: 東京都千代田区 / 一橋大学一橋講堂
お問合せ: 理数学習推進部 能力伸長グループ
Tel: 048-226-5669 Fax: 048-226-5684 Mail: gsc@jst.go.jp

JST産学共創基礎基盤研究プログラム

「ヘテロ構造制御」公開シンポジウム

ヘテロ構造制御で起こすイノベーション - 構造用金属材料の新指導原理 -

開催日: 9月22日(木) 9:00~17:15
会場: 大阪府豊中市 / 大阪大学 豊中キャンパス 全学教育大講義室
講演者: 戸田 裕之(九州大学 教授)、下川 智嗣(金沢大学 教授)、
佐藤 英一(宇宙航空研究開発機構 教授) ほか
お問合せ: 産学連携展開部 研究支援グループ Tel: 03-3238-7682

弘前大学COI「ヘルシーエイジングイノベーションフォーラム2016」

開催日: 9月23日(金) 13:00~17:00
会場: 東京都千代田区 / 一橋講堂・大ホール
お問合せ: 弘前大学COI研究推進機構
Tel: 0172-39-5538 Fax: 0172-39-5205
Mail: coi_info@hirosaki-u.ac.jp

トークイベント「いのちを迎えるすべての人へ

~赤ちゃんの出生前検査を考える~

開催日: 9月25日(月) 13:00~15:00
会場: 東京都江東区 / 日本科学未来館 7階会議室2
お問合せ: 日本科学未来館 事業部 プログラム企画開発課
Tel: 03-3570-9151 Fax: 03-3570-9150

環境・エネルギー分野 新技術説明会

開催日: 9月27日(火) 9:55~12:00
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

高機能デバイス・電子材料分野 新技術説明会

開催日: 9月27日(火) 12:55~16:00
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

第97回CRCC研究会「アメリカから見た中国」

開催日: 9月28日(水) 15:00~17:00
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ: 中国総合研究交流センター
Tel: 03-5214-7556 Mail: crcc@jst.go.jp